学校通信　相小　春休み号
2024（令和6）年　3月19日
椙山女学園大学附属小学校

子どもの話に耳を傾ける

校　長　　相　川　保　敏

お子様の学年の修了、まことにおめでとうございます。

コロナ禍で中断されていた多くの活動が本年度はほぼ例年のように進められました。しかし、活動の中には３年間行っていなかったものあり、子どもたちは試行錯誤しながらもがんばって取り組んでくれました。こうしたがんばりを支えてくれたのは６年生です。最高学年として学校行事や委員会活動、縦割り清掃など様々な場面で、責任感を発揮し、下級生のことを考えて行動してくれました。特に低学年の中には、同じ縦割り班の６年生に出会うと自分から声をかけ、駆け寄っていく姿をよく見かけます。昨日のお別れ会では、下級生から慕われ、頼りにされていた６年生への思いが歌や言葉で表現されました。６年生のお姉さんとの別れを惜しみ、涙を流す姿も見られました。６年生の姿が見えなくなってしまうことは寂しい限りですが、４月からは新１年生が入学してきます。別れと出会いの中で、それぞれが成長していってくれることと期待しています。

さて、進級に当たって子どもたちはどんなことに期待を膨らませて、どんなことを心配しているのでしょうか。子どもは本来自分のことを見てほしい、聞いてほしいと願っていますので、友達のこと、先生のこと、勉強のことなどを聞いてあげることで、期待が膨らみ心配が軽減されるはずです。しかし、低学年のころは何でも話してくれますが、学年が進むにつれてその内容や頻度も変わってきます。高学年になると親子の会話も減り「子どもが何を考えているのか分からなくなってくる」という声も聞かれます。子どもが自分から進んで親に話をしなくなってしまい、SNS が子どもにとって重要な会話ツールになってしまうことや親の話を聞かなくなってしまうことが懸念されます。

「子どもの話に耳を傾けよう。」デニス・ウェイトリー

きょう、少し
あなたの子どもが言おうとしていることに耳を傾けよう。
きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。
さもないと、いつか子どもはあなたの話を聞こうとしなくなる。
子どもの悩みや要求を聞いてあげよう。
どんなに些細な勝利の話も、どんなにささやかな行いもほめてあげよう。
おしゃべりを我慢して聞き、いっしょに大笑いしてあげよう。
子どもに何があったのか、何を求めているかを見つけてあげよう。
そして、言ってあげよう、愛していると。毎晩、毎晩。
叱ったあとは必ず抱きしめてやり、
「大丈夫だ」と言ってやろう。
子どもの悪い点ばかりをあげつらっていると、そうなってほしくないような人間になってしまう。
だが、同じ家族の一員なのが誇らしいと言ってやれば、
子どもは自分を成功者だと思って育つ。
きょう、少し
あなたの子どもが言おうとしていることに耳を傾けよう。
きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。

上の詩はアメリカの人間行動学博士デニス・ウェイトリーが書いたものです。大人が子どもの話をしっかり聞けば、子どもはきっと大人の話を聞くようになると言っています。親だけでなく、教師も心がけていきたいものです。

最後になりますが、今年度も本校の教育に対し、ご理解・ご協力いただきましたことを心より御礼申し上げます。次年度も引き続き変わらぬご支援をお願いいたします。